

被災建造物の復旧性能評価研究委員会
H18年度 第2回 拡大幹事会議事録(案)

日時：2007年2月1日(木) 16:00～18:00

場所：日本コンクリート工学協会 12階会議室

出席者：白井(委員長)、中村(副委員長)、衣笠(幹事)、河野(幹事)、小林(幹事)、
鈴木、向井、林(事務局)、田嶋(記録)、以上9名

資料

- No.K-18-2-0 H18第8回「復旧性を考慮した耐震設計WG1」議事録
 - No.K-18-2-1 H18第9回「復旧性を考慮した耐震設計WG1」議事録
 - No.K-18-2-2 H18「損傷評価WG2」議事録
 - No.K-18-2-3 H18第7回「補修・補強後の性能評価WG3」議事録
 - No.K-18-2-4 委員会報告目次案
 - No.K-18-2-5 被災建造物の復旧性能評価研究委員会・シンポジウムスケジュール案
 - No.K-18-2-6 H18第8回「補修・補強後の性能評価WG3」議事録
 - No.K-18-2-7 日本大学理工学部教室等の学外団体の使用に関する内規
- ※その他、WG3担当分の報告書原稿案あり

議事内容

1. 委員会報告目次案の変更等について

委員会報告目次案の変更点について、各WG主査から報告があった。以下に概要を整理する。

<WG1>

「5.3 復旧性を考慮した耐震設計の枠組み」に関して、内容を以下のように細分化した。

5.3.1 復旧費用と復旧時間に基づく耐震設計方の枠組み

5.3.2 復旧費用・復旧時間の推定の考え方

(1) 復旧費用推定の考え方(「包括的な解説」+「具体的な手法」)

(2) 復旧時間推定の考え方

なお、上記5.3.2(1)の「包括的な解説」の部分に関しては、竹中工務店の瀬谷氏に執筆の協力を依頼している。複数の企業が集まってPMLの考え方について議論する機会があり、その際に決定した共通認識事項など包括的な内容について説明していただく予定である。

<WG2>

変更の可能性はあるが、現状ではまだ具体的な変更内容を示すことはできない。WG2では、土木系委員の数が少なく、負担が多い。また建築と土木において、損傷評価に対する考え方が異なっている。今後、建築と土木のドラフト原稿の状況を確認しながら、必要に応じて目次案を変更することがあると考えている。

<WG3>

WG3 が担当する 4 章では, WG 内での議論を通じて目次案を変更した。詳細は, 資料 No.K-18-2-4 の 4 章の部分のとおりである。

2. 各 WG 委員会報告書原稿の進捗状況

委員会報告目次案の変更を踏まえて, 各 WG 主査より委員会報告書原稿の進捗状況について報告があった。委員会報告書原稿の進捗状況は別紙のとおりである。

3. 各 WG の活動状況について

各 WG の主査より, これまでの活動状況について, 各 WG 議事録に基づいて説明があった。また, 各 WG の活動状況について, 意見交換が行われた。以下に概要を示す。

- ・WG2 が担当する 3 章において北山委員が担当している「3.2.4 耐震補強した構造物の性能評価」に関しては, WG3 のドラフト原稿を参照し, 内容の重複がないよう若干の修正を加えて対応する。(河野)
- ・WG3 が担当する 4 章において滝本委員が担当している「4.2.1 補修後構造物の剛性評価に関する既往の研究」に関して, 既往の文献調査をまとめた表中に「耐力」を加えて考察した方が良いのでは?(鈴木)

4. 原稿執筆に関わる問題点について(図番号, 文献番号など)

原稿執筆に関わる問題点として, 図番号および文献番号の付け方について, 田嶋委員から過去の委員会報告書の例が説明された。また, 本委員会においては, 過去の研究委員会報告書等を参考にして, 田嶋委員が共通のルール案を作成して各委員へ連絡することになった。

5. シンポジウムスケジュールについて

本委員会のシンポジウムの開催時期, 開催場所および基調講演について議論した。その結果, 以下のような方針で準備を進めることになった。

開催時期: 8 月初旬 (8/1,2,3,10 が候補か?)

開催場所: 日本大学理工学部 1 号館 121 会議室 (東京都千代田区, 最寄駅: JR 御茶ノ水他)

基調講演: 建築/白井委員長が人選する 土木/中村副委員長が人選する

6. 次回拡大幹事会および全体委員会の開催について

- ・拡大幹事会: 3 月 14 日 17:00 ~ 当日までに各 WG 主査は原稿を集めておくこと。
- ・全体委員会: 3 月 26 日 16:00 ~ 今後の打合せ (シンポジウムなど), 終了後に懇親会あり。

以上